中村俊定文庫
文庫 18
161

此集者秉武之桃隣先師芭蕉翁十七年忌
追善之集也

正徳三春月夕写之　　随瓢軒
素木

桑津原

桃隣撰

東北大学

ゆく川の流れは絶えずして、しかも本の水にあらず。
淀みに浮かぶうたかたは、かつ消えかつ結びて、久しくとどまりたるためしなし。
世の中にある人と住まひとまた、かくのごとし。
元禄七年、芭蕉翁西国行脚の
の節、月中旬芭蕉翁、西国行脚の
途中、武江を立つ。
行く〳〵て、難波の津より門司に渡れば、
三つ〳〵、兵庫をわたし、
のぼるほど、長崎のはれ渡りの
つゆのいとあつき、
ものゝ、
ものゝ、
市中月のすゝ
脚を
裏に包て、江州
ゆく〳〵、
屋根伝ひ、
を
伝善善〳〵

像定藏

中村俊定文庫

[illegible]小灌[illegible]
[illegible]
[illegible]

七夕の登白古業[illegible]
[illegible]
[illegible]

文月や六日も常なる都の空

雲を吾雲[illegible]

湖水の月よ吾拍手して

三井寺[illegible]

[illegible]

[illegible]

実ハ実之多ク有世ニ稀ニ而
あれ共西国ニ稀ニ有之
[illegible]

芭蕉居士諸国之墳所

一筒所　伊賀上野萬福寺　生国親屬建之
一筒所　江州粟津京義仲寺　門弟中建之
一筒所　美濃大垣城外正覚寺　此国之門人建之
一筒所　京東山及林寺　門人建之
一筒所　大坂道頓堀千日寺　門弟建之
一筒所　江戸深川長慶寺　門葉建之
一筒所　肥州長崎南京寺　西国門下建之
元禄年中ヨリ寛永年中ニテ九七ヶ所

予ハ老衰病ヨリ此比ハ肉脱シテヒハ皮骨
のミ残リ[illegible]
[illegible]
江都浅草ヲ歩ク[illegible]
[illegible]

猿の皮猿の屁と笑ふもまた狂歌
なりとて侍りしを聞きてと詠しうた小町の情
予ハ世ニ出ス[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

月あるよ芋ハ[illegible]　桃翁

晨昏日没の田面師の垂るるよりとかくて
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

悪ヲ世ニ[illegible]
門弟[illegible]
[illegible]
[illegible]

ほの[illegible]の[illegible]の[illegible]の

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

寂蓮法師の百首の歌に[illegible]

門人桃翁芭蕉翁の祝其忌桂翁

[illegible]

芭蕉翁十七回忌を江戸桃翁[illegible]

[illegible]

一休和尚[illegible]

世を捨て[illegible]

[illegible]

龍門寺上人の器物[illegible]

文臺より西行[illegible]

[illegible]

[illegible]

年頃にて荒し苔乃沈と化
現夕を経て訪えの山の麓　〃秋　馬道

吉野山伊乃之水辺庵より御尋
今ゝの世の人のゝ也ゝ本の系ゝ　〃　泊荷
湖を〳〵拍風をし墓ゝこゝ　〃　泊梅
系の光ゝ打かゝ憐の鳥ゝる　〃　右巴
為ゝ為ゝ為ゝ墓ゝ為ゝ桂　〃　里友
宅ゝゝゝ明　空具て来の墓　〃秋　荷葉
霜ゝ向ゝ主ハ代ゝ御彩石　石川　露草

星霜舊十七回薫風戦長慶禅崖彩
雲輝　辺東石碑秀人佳作風雅悉盡
矣本来毎一物而残号於俳林惟是
顯仏性之躰哉

伊柏乃中ゝ会高野古墳ゝ　仙化
爰ハ柏ゝ世ゝ　ハ其隙まても
風雅ゝ趣ゝ忘れゝ
爰人乃ゝ〳〵履音ゝ柏尾ゝる　竹人

弟子ゝ鐘を吾ハ五百年年
芭蕉ゝ貴を埋ハ七十年七

実の霜ゝ芭蕉ゝ乃ゝ鐘を柏ゝ　金津　錦角
蕉ゝの八ゝいゝ　ハの　今　蚪諷
無衣の木の葉宗ハ　錦川　今　而后
霊脂箔ゝ旭ゝ消ゝ　今　唖吟
紅葉笠莫ゝ　今　露鳥
早雲ゝ其間ゝ　今　白峯
其人ゝ世ゝうゝ　私　林抹
風雅ゝ〳〵むゝ拍ゝ　釈　友水
ゝ拍乃ゝ　青山　松皮
世乃ゝ　今　止夕
百関ゝ拍色ゝ霜乃　今　和葉
ゝ拍乃中ゝ　今　和由
俳廊を雲洋ゝ　八陶

芭蕉の実ゝ
ゝ
ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

風を注ぐ玉の人よ杜の夢　提蒐
世の中の柳そなの徳　今従
本系撥撥理　風雅堂　蝶ト
隨三くの山系の紀芳五五葉　雪水
伊七三三三　ろよ乃市小　田方
桃夏よ五ことし　鳴る　芥る
世こに芝面名のこ伊へ弥育　西村
とこの神こそに高やこ云れや　南桂
政とそ和帝深川のなる　蘭臺
庚申川芳八拓面名石神面　乙女
仁王経史面とあるよ
世間面卯中面一つよ与月　蜜高
業帝面人こ世こ高の行　和風
高のとの行ふと　
四三五五そそ世の面神る　寛慶
本ありし九後や高中一十七座　山夕

神の面行の樟　負仏
郡名の名風郡幾の樟
迎えそ芝沖時女に苟の行　浮生
面高行こ沖面四つ　豆莫
樟の樟とふと世沖面頂
桃三の桃と三と世を行を
記三れいこ三と白人　圓石
樟三のあるつとれ　甲州
加三三と沖行人と　立唯
多稲三樟三沖　藤原　寄保
柿の母面面中三沖や　苔丸
年よこの堀よ芝け沖の　方水
桃青八根よ人つ樟後のこれ桃　壺瓢軒
時面月まこと三三芭蕉墳　調和
三面面或三人伴ひ比神三月
面外面面面の三と臥時面三と樟
樟七三三しもこ三面の三樟と樟

[illegible]

[illegible]

[illegible]

櫻ちる　花ゆゑ　こむ　今我

花ゆゑ　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　松苑

栗津の原　丁子屋

花見　もとめ　やる　八中行年　和英

松の葉　ゆく　ゆく　栗津　京の名　如毛

伊吹山　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　無く

伽藍　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　調嘉

いとは　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　松翁

華の笑　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　舞内言葉木実　桃白

水仙　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　日沢源氏　桃紅

他所乃為行脚圓の門弟

いとは　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく

花ゆゑ　芭蕉よ　百八十寺　桃翁

訓祖松永道逞軒長頭凡夫徳

北村拾穂軒再昌院法印李吟

松尾釣月軒芭蕉翁桃青居士

天野吳竹軒大白堂桃翁

宝永七庚寅之十月十二日　下　印

桃青之桃者東方朔之棗餘而青之

滑稽者俳諧朔鳴呼翁ヒヒ一見遺

文使人絶倒秀作佳珍鳴三津及蝦

夷分孤引流之明人若干不可枚擧

發其從直者或魯也不魯或翔也多

與翁齟齬也適得其志者紫江東之

二三子耳其角嵐雪者先亡矣桃翁

一人奥縄其業今年以蕉翁之遠忌
演追福之志獨唫及拾它款哥連詭
之佳作十有七之年浪者敲栗津磯
都鄙之好士者使樂艦而集既成矣
題以京為橋南之震龍為一閲遂為
之跋尾寶永七庚寅之初冬

野震龍齊稿

□□

佑文山書

□□